

# シリンダカッタ

## 取扱説明書

**CR-191C**  
**CR-211C**



### も く じ

#### ご使用になる前に

- はじめに ..... 1
- 安全のため必ずお守りください ..... 2
- 各部の名称とはたらき ..... 7
- 使用前の準備 ..... 8

#### ご使用にあたって

- 毎日作業前の点検 ..... 9
- 作業のしかた ..... 11

#### 知っておきたいこと

- 定期点検と調節 ..... 15
- 長期格納 ..... 18
- 不調の原因と処置 ..... 19

#### その他

- 仕様 ..... 20
- 安全確認一覧表 ..... 22

ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、本機の正しい安全な使い方、保守点検などについて記載してあります。本機を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、本機の構造などをじゅうぶんにご理解ください。




なお、仕様などの変更により、お求めいただいた製品と、本書の内容やイラストの一部が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お読みになった後、必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、いつでも取出してご利用できるようにしておいてください。

## ■危険防止

この取扱説明書では、必ず守っていただきたい重要な注意事項について、次のように表示しています。

### 1. 安全のため必ず守っていただきたいこと。

-  **危険** …… もし守らないと、死亡または重傷事故を引起こします。
-  **警告** …… もし守らないと、重傷事故を引起こすことがあります。
-  **注意** …… もし守らないと、負傷事故を引起こすことがあります。

### 2. 機械の損傷を防ぐため必ず守っていただきたいこと。

-  **重要** …… もし守らないと、機械の故障や損傷につながります。

## ■ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本機についてご不明な点や、不具合がありましたら、無理に使用せず、ご購入店または弊社（本書のうら表紙に記載）までお問い合わせください。

軽い故障でも重大事故につながる場合がありますので、早期発見に心がけ、早めに整備してください。

故障や不具合が発生したときは、型式名と製造番号を必ずご連絡ください。



### **警告**

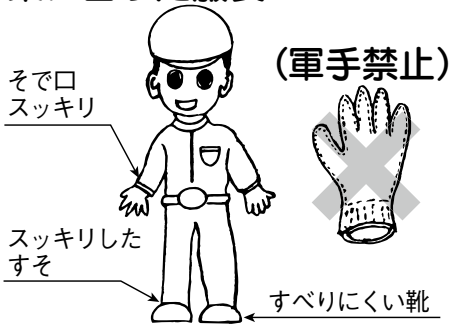
- 本機はわら・牧草類・残幹切断用として設計されております。このほかの用途には使用できません。
- 改造して使用することは、しないでください。

# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

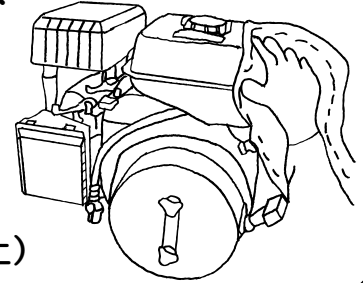
使用前にこの取扱説明書とエンジンの取扱説明書をよく読み、理解する

機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し、あらかじめ取扱説明書をよく読ませる

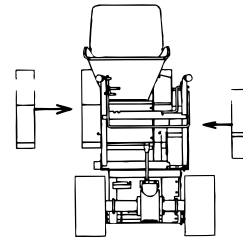
作業に合った服装



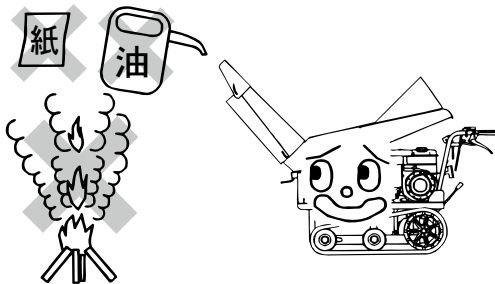
エンジンに附着したゴミ等は常に取り除く



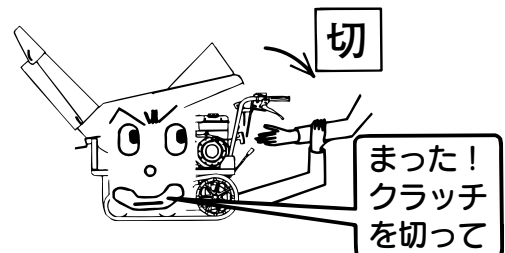
カバーは必ず取付けてから運転



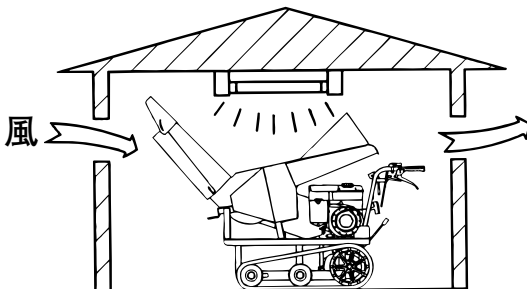
給油はエンジンを止めて、冷えてから、又周囲の火気厳禁



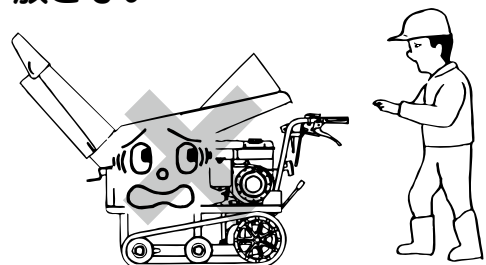
エンジン始動は周囲の安全を確認し、クラッチを切ってから



室内換気の悪い所、暗い所では使用しない (中毒防止)

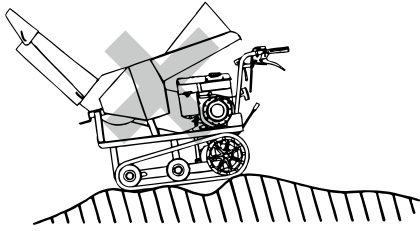


走行中はハンドルから絶対手を放さない

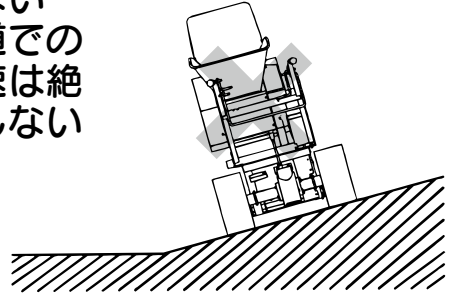


**!** **注意** 安全のため必ずお守りください

作業は水平でしっかりした  
場所で



10°以上の傾斜面には乗り入  
れない  
坂道での  
変速は絶  
対しない



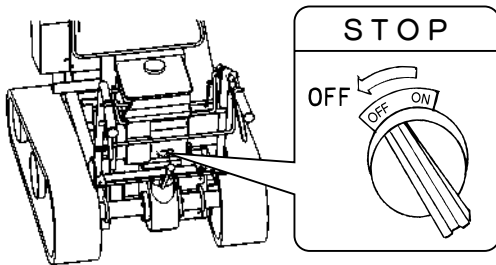
機械から離れる時はブレーキを  
掛け、エンジン停止し、冷えて  
から



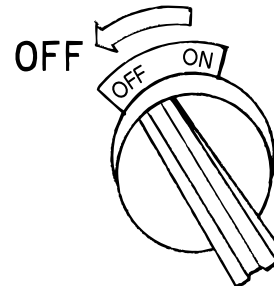
エンジンの高温部には、絶対  
手を触れない



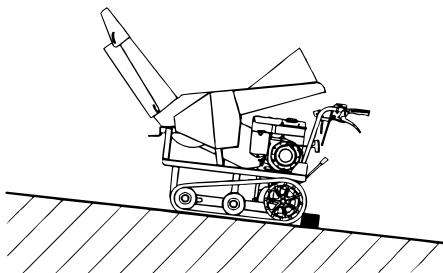
点検や調整時は必ずエンジン  
停止



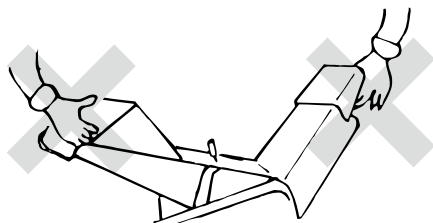
詰まりや異常発生時はすぐに  
エンジン停止



傾斜地に置く場合は車止めを

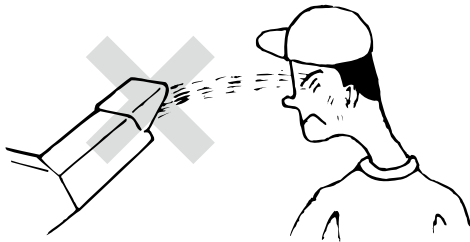


回転中は供給口や吐出口へ絶  
対に手を入れない

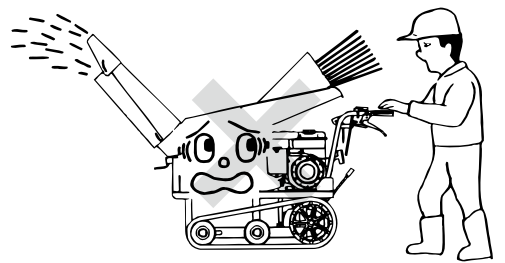


# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

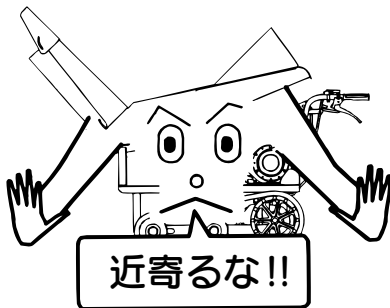
吐出口を人や家畜に向けない



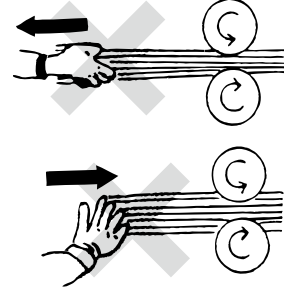
走行中にカッタ作業は絶対しない



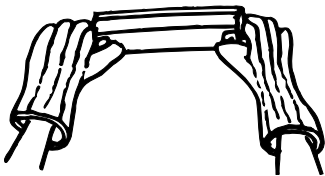
回転中は人を近づけない



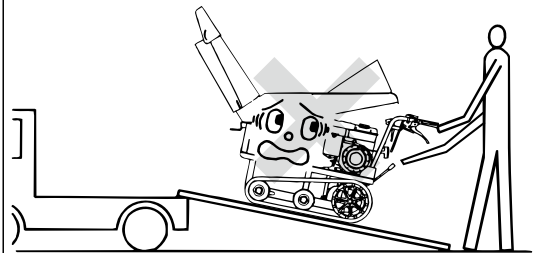
供給物を無理に引張ったり、押し込んだりしない



刃物の点検・交換は厚手の革手袋着用

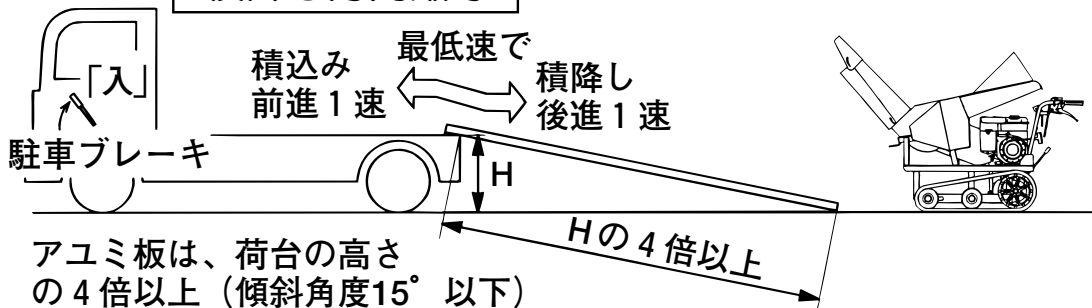


アユミ板上では変速、方向操作絶対禁止



積降し方向厳守

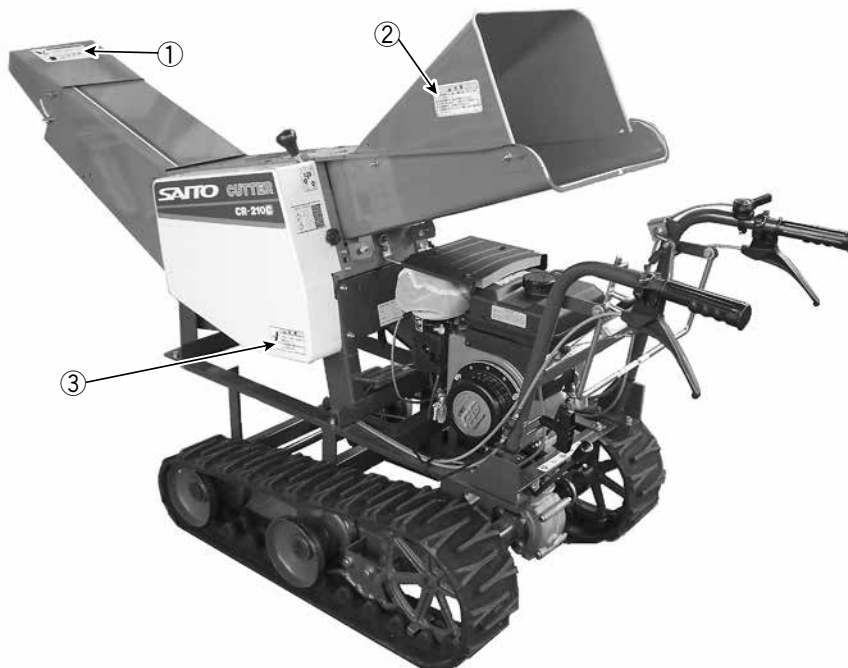
排出部をトラックに向ける



# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください

## 使用前に安全ラベルをよく読む

- カッタには次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



①品番 71168-4121-1

	<p style="text-align: center;"><b>⚠️ 危険</b></p> <p>1. 中の回転刃によりケガをするおそれがあるので、回転中は中に絶対手を入れないこと。動力を切っても回転刃はすぐには止まりません。</p> <p>2. このカバーを外したままで使用しないこと。</p>
	<p style="text-align: center;"><b>⚠️ 注意</b></p> <p>人や家畜に吐出口を向けないこと。切断物があたりケガをすることがあります。</p>

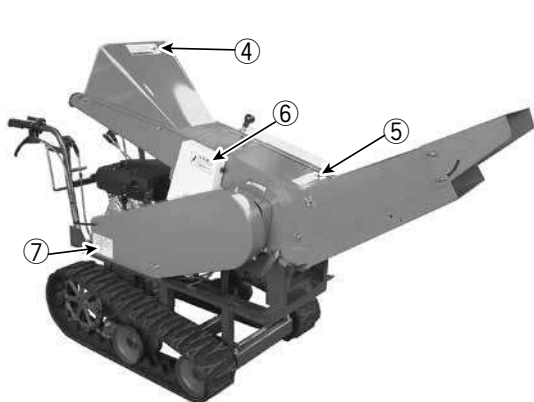
②品番 71131-4117-1

<p style="text-align: center;"><b>⚠️ 注意</b></p> <p>1. 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてから使用のこと。</p> <p>2. 取扱説明書がない場合は取寄せて下さい。</p> <p>3. 必ず動力部の安全カバーを取り付けて使用のこと。</p> <p>4. 点検整備時は、必ず動力を止めること。</p> <p>5. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元通り取り付けること。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③品番 57422-7119-1

	<p style="text-align: center;"><b>⚠️ 注意</b></p> <p>このカバーを外したままで使用しないこと。</p> <p>中の回転物に巻き込まれることがあります。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

# ⚠️ 注意 安全のため必ずお守りください



④品番 71168-4118-2

	<b>⚠️ 危険</b>
	<p>1. 中のロールによりケガをするおそれがあるので、回転中は中に絶対手を入れないこと。動力を切ってもロールはすぐには止まりません。</p> <p>2. この供給口を開けたままで使用しないこと。</p>

⑥品番 57422-7119-1

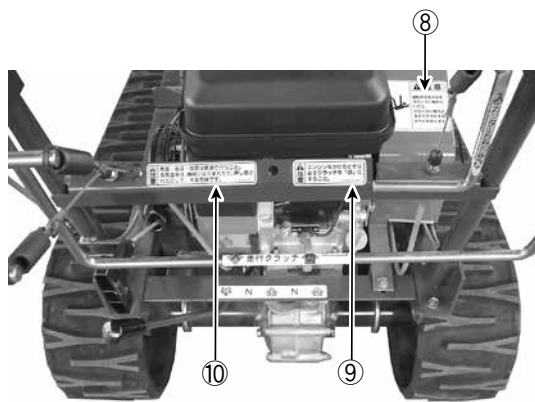
	<b>⚠️ 注意</b>
	<p>このカバーを外したままで使用しないこと。 中の回転物に巻き込まれることがあります。</p>

⑧品番 57422-7119-1

	<b>⚠️ 注意</b>
	<p>運転中は手や足をクローラに触れないこと。 クローラに巻き込まれてケガをするおそれがあります。</p>

⑩品番 71335-4113-1

<b>注意</b>	<p>発進・後退・旋回は低速で行なうこと。</p>
	<p>急発進等は、機体にはさまれたり、押し倒されたりして、大変危険です。</p>



⑤品番 71168-4119-1

	<b>⚠️ 危険</b>
	<p>1. 中の回転刃によりケガをするおそれがあるので、回転中は絶対にカバーを開けないこと。動力を切っても回転刃はすぐには止まりません。</p> <p>2. このカバーを開けたままで使用しないこと。</p>

⑦品番 71721-6115-1

<b>⚠️ 注意</b>
<p>トラックへの積み込み、積み降ろし</p> <p>1. 積み込みは前進1速、積み降ろしは後進1速でエンジン回転を最低にして行ってください。反対側からの積み込み、積み降ろしは、大変危険ですので絶対に行わないでください。</p> <p>2. アユミ板は、荷台の高さの4倍以上のものを使用してください。 (傾斜角15°以下)</p>

⑨品番 71721-6115-1

<b>注意</b>	<p>エンジンをかけるときは必ず走行クラッチ、カッタクラッチを「切」にすること。</p>
-----------	----------------------------------------------

- ラベルはいつもきれいにし、ハッキリと見えるようにしてください。
- シナーやアセトンなどの溶剤ではふかないで下さい。文字や絵が消えることがあります。
- ラベルが損傷・破損した場合は新しいラベルと交換してください。
- 安全ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい安全ラベルも取寄せ、取外した部品と同じ場所に貼ってください。



# 各部の名称とはたらき

## ●供給クラッチ

クラッチを「入」にすると供給ロールが回転します。

## ●吐出口3

切断物の吐出距離(角度)を調節します。

## ●ベルトカバー(安全カバー)

内部にVベルト、ギヤ等があります。

## ●チェーンカバー(安全カバー)

内部にチェーン、ギヤ等があります。

## ●供給樋

供給物の供給を行なう安全樋です。

## ●リコイルスタータ

エンジンを始動するときに引きます。

## ●上部カバー(安全カバー)

内部に回転刃があります。

## ●樋力バー(安全カバー)

## ●サイドクラッチ右

走行時にぎると右へ回転します。

## ●サイドクラッチ左

走行時にぎると左へ回転します。

## ●走行クラッチ

「入」走行、「切」でブレーキが作動します。

## ●吐出口1(安全カバー)

切断物の吐出距離(角度)を調節します。

## ●吐出口2(安全カバー)

## ●プーリカバー1(安全カバー)

内部にプーリ、Vベルトがあります。

## ●エンジン

## ●アクセルレバー

エンジンの回転数を調節します。

## ●カッタクラッチ

クラッチを「入」にすると回転刃が回ります。

## ●下カバー2(安全カバー)

## ●下カバー1(安全カバー)

内部にプーリ、Vベルトがあります。

## ●ハンドル

## ●クローラ

## ●変速レバー

進行方向の切換に使用します。



# 使用前の準備

## 注意

●準備作業は必ずエンジンを停止した状態で行なってください。

### 1. 吐出口1・2・3の組付け

①吐出口1・2をカッタ排出部へ組付けます。

M6×15チョウボルト……………4個

M6平座金……………2個

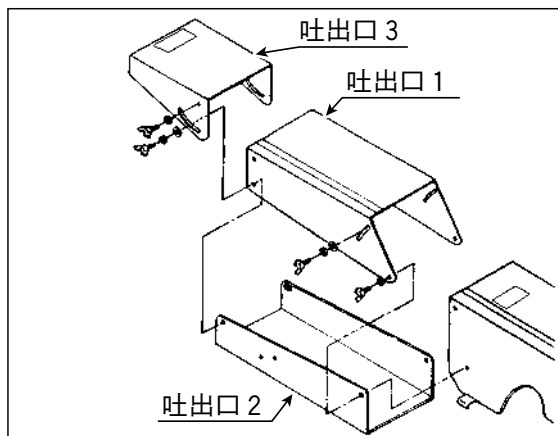
M6パネ座金……………4個

②吐出口3を吐出口1・2に組付けます。

M6×15チョウボルト……………4個

M6平座金……………2個

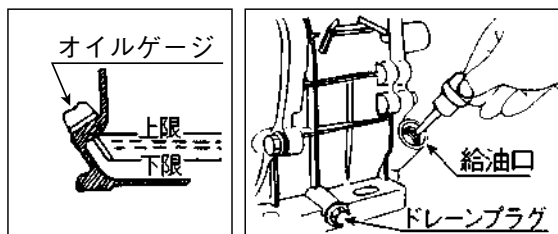
M6パネ座金……………4個



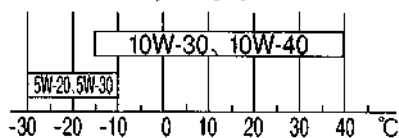
### 2. エンジンオイルの点検

オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふきとります。もう一度差込んでから抜き出し、ゲージの上限にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より上限になるまで入れてください。

■エンジンオイルはSE級以上を使用し、粘度は気温によって右表のように使い分けてください。



エンジンオイル



### 3. 切断長さの設定

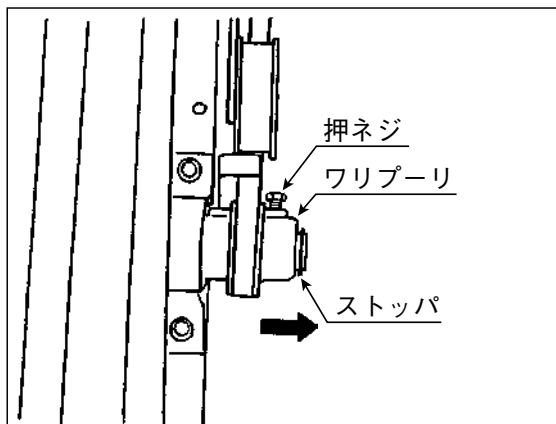
切断長さはギヤの入替えとワリプーリの組合せで4種類の選定ができます。

切断長さ調節表

ギヤ	オプション			
	45mm	90	22	150
ワリプーリ	35mm	70	17	120
ストップパ	T33	T23	T42	T14
ワリプーリ	T23	T33	T14	T42

#### ワリプーリの切換え

- ①供給クラッチを「切」にします。
- ②ワリプーリの押ネジをゆるめワリプーリをストップパに当たるまでスライドします。
- ③ワリプーリの押ネジを締付けます。



# 毎日作業前の点検

## ⚠ 注意

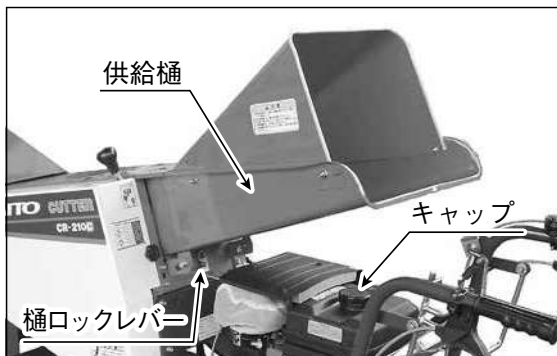
- 点検作業は必ずエンジンを停止し、カッタの回転が止まってから行ってください。
- 点検で外したカバー類は、必ず元通り取付けてください。

### 1. 燃料の点検

## ⚠ 注意

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、完全に冷えてから行ってください。エンジンが熱い間はヤケドや火災の危険があります。
- 火気の近くやくわえタバコでの燃料補給は絶対にしないで下さい。火災や爆発の危険があります。

- ① 樋ロックレバーを解除し、供給樋を開きます。
- ② キャップをあけて燃料を補給します。



## 重要

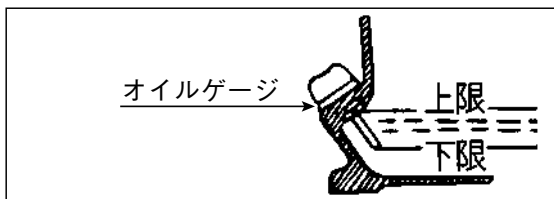
- 燃料は自動車用レギュラガソリンを使用し、それ以外は使用しないでください。

## ⚠ 注意

- 給油後キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

### 2. エンジンオイルの点検

オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふきとります。もう一度差込んでから抜き出し、ゲージの上限にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より上限になるまで入れてください。



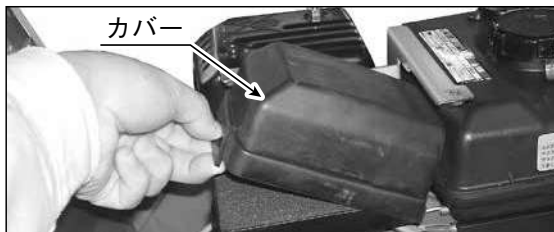
### 3. エアークリーナの掃除

毎日作業前にエアークリーナのエレメントを点検し、汚れていれば掃除してください。

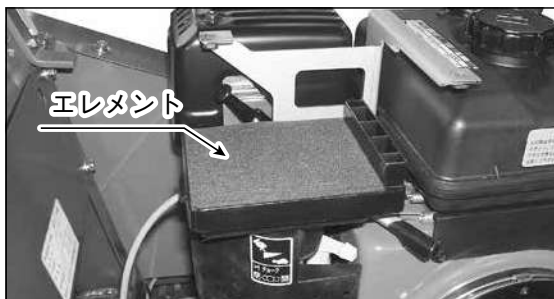
- ① エンジン上部カバーとスクリーンを取り外してください。



- ② エアークリーナのカバーを外し、エレメントを点検してください。

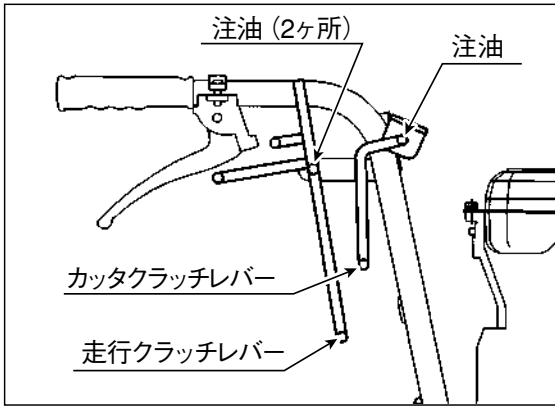


- ③ エレメントの汚れがひどいとき、およびオイル分がなく乾いているときは、白灯油で洗浄後エンジンオイルに浸し、片手で固く絞ってください。



#### 4. 注油箇所

各レバーの支点部には、毎日作業前に必ず適量注油してください。



#### 重要

- 毎日の注油をおこたると、機械寿命が低下します。

#### 5. エンジン・カッタの掃除

エンジン・カッタ及びその周辺のごみ・切りわら等を毎日作業前にきれいに取除いてください。

カバー内部のごみ溜まり等も取除いてください。

#### 注意

- 排エンジンの高温部にわらくず・ごみ等があると火災の原因となります。
- エンジンの冷却風の通路がごみ等でふさがると、過熱して火災の原因となります。

#### 6. 刃物の接触

① カッタの主軸を手でゆっくりと回転し、回転刃と固定刃の接触がないか確認してください。

もし接触があれば、すき間調節してください。(P 17参照)

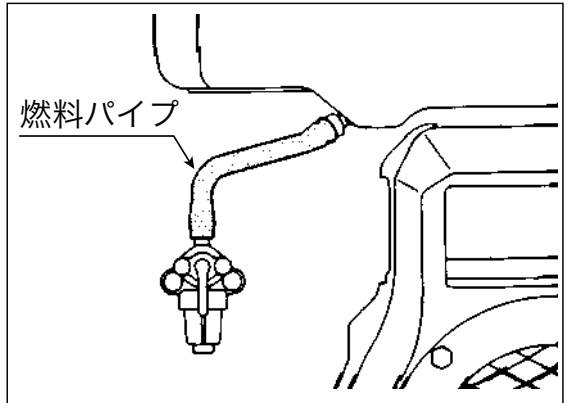
② 刃物取付ボルトがゆるんでいないか確認してください。もし、ゆるんでいるときは締付けてください。そのほかのボルト、ナットのゆるみなど異状がないか確認し、異状があればそのまま使用せず、すぐに処置してください。(P 19参照)

#### 注意

- 刃物が接触したり、ボルトがゆるい状態では絶対に回転させないでください。刃物が欠けて飛散し、傷害事故になることがあります。

#### 7. エンジンの燃料パイプの点検・交換

エンジンの燃料パイプ及びゴム類は3年毎(但し、必要に応じ交換)に交換してください。また、パイプ・ホース類が傷んだり、締付けバンドがゆるんでいないか、常に注意してください。

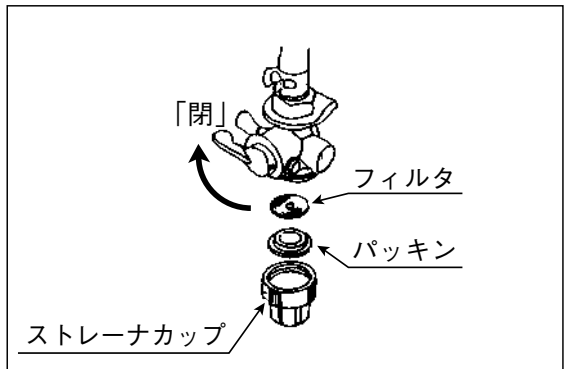


#### 注意

- 燃料パイプ等の劣化・傷により燃料がもれると火災の原因となります。

#### 8. ストレーナカップの点検・掃除

① 燃料がこぼれないように燃料コックレバーを「閉」にします。



② ストレーナカップをゆるめて取外し、カップ内部をガソリンで洗浄します。

③ ストレーナカップを締付けます。このときフィルタとパッキンの組込みを忘れないでください。

# 作業のしかた

## ⚠ 注意

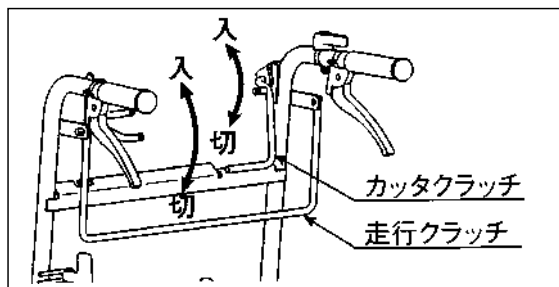
- 本機には照明灯が付いておりません。暗くなってからの作業は行わないでください。
- 機械から離れるときは必ずエンジンを停止し、冷えるまで待ってからにしてください。
- エンジン回転中と停止後10分位はエンジンに触れないでください。ヤケドをします。

## 1. エンジンの始動

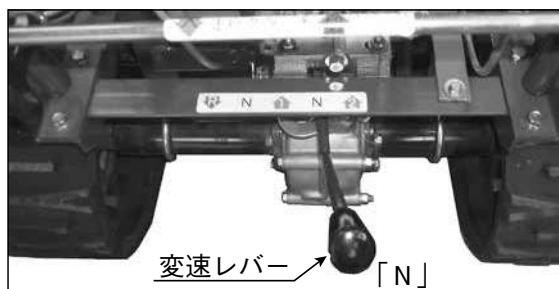
### ⚠ 注意

- 周囲の安全をじゅうぶん確認し、必ず走行クラッチ、カッタクラッチ、供給クラッチを「切」にしてから始動してください。
- エンジンを始動する時は、変速レバーを「N(中立)」にしてください。
- カバー類を外したままでエンジンを始動しないでください。回転体に巻き込まれケガをします。

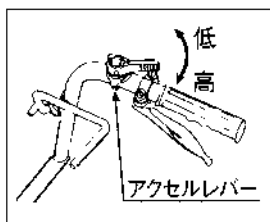
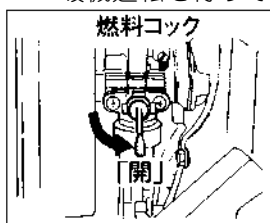
- ① 走行クラッチ、カッタクラッチ、供給クラッチを「切」にします。



- ② 変速レバーを「N(中立)」の位置にします。



- ③ 燃料コックを「開」にします。  
④ エンジンのスイッチを「ON」にします。  
⑤ アクセルレバーを「低」と「高」の中間の位置にします。  
⑥ チョークレバーを「閉」にします。  
(エンジンが熱いときは不要です。)  
⑦ リコイルスタータハンドルを引き、始動します。始動したらチョークレバーを「開」にします。  
⑧ 始動後3～5分間は負荷をかけずに低速で暖機運転を行ってください。



## 2. エンジンの停止

- ① 走行クラッチ、カッタクラッチ、供給クラッチを「切」にします。  
② アクセルレバーを「低」にします。  
③ エンジンのスイッチを「OFF」にします。  
④ 作業終了の場合は燃料コックを「閉」にします。

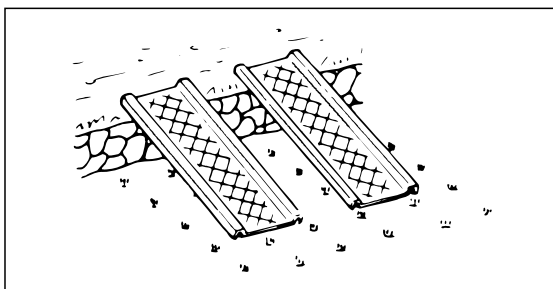
### 3. 走行

#### ⚠ 注意



- 発進・後退・旋回は低速で行なってください。急発進などは機械にはさまれたり、押し倒されたりして、大変危険です。
- 走行時は必ずカッタクラッチと供給クラッチを「切」にしてください。
- 本機の前傾角度は15°で、横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には危険ですから乗り入れないでください。
- 走行中は、手放し運転は絶対にしないでください。
- できるだけ凹凸の少ない平坦な場所を選んで移動してください。
- 坂道での変速は絶対にしないでください。自重で暴走する危険があります。
- 機械には物を乗せないでください。
- 走行クラッチは必ず手で操作し、「入」または「ブレーキ」の位置に確実に固定してください。クラッチを途中で止めると、坂道などで自重により暴走する危険があります。また、緊急の場合をのぞいて、胴体など手以外の部位を使って、クラッチを切ることはしないでください。

#### ⚠ 注意


- 段差の乗り越えは、低速で段差に直角に進入してください。5cm以上の段差、又は、コンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。
- 作業場所への移動は、必ずトラックで移送してください。公道走行は、交通法規違反になります。

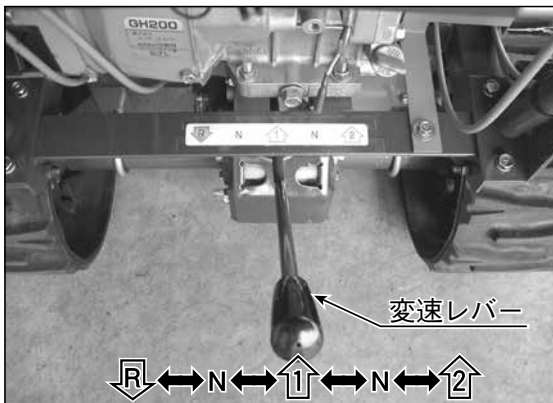


#### 3-1 前進

- ① 変速レバーを  (低速) か  (高速) に合わせます。
- ② アクセルレバーを「低」にします。
- ③ 走行クラッチを「入」にすると前進します。  
その後、アクセルレバーで速度調節をします。

#### 3-2 後進

- ① 変速レバーを  (後進) に合わせます。
- ② アクセルレバーを「低」にします。
- ③ 走行クラッチを「入」にすると後進します。  
その後、アクセルレバーで速度調節をします。



#### ⚠ 注意

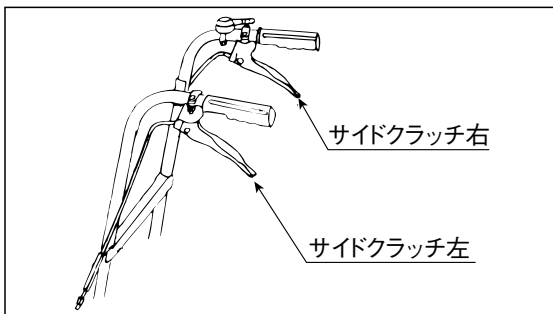
- 発進・後退・旋回時は、必ず周囲の安全を確認してください。
- 変速レバーの位置を「2 (高速)」で発進させる時は、急発進し大変危険ですので、極力アクセルレバーは最低の位置にして行なってください。

#### 3-3 旋回

#### ⚠ 注意

- 高速での操作は危険です。必ずエンジンの回転数を下げてから操作してください。

走行しながら右側のサイドクラッチをにぎると右へ旋回、左側のサイドクラッチをにぎると左へ旋回します。



### 3-4 駐・停車

- ① 走行クラッチを「切」にし、「ブレーキ」の位置に固定します。
- ② 変速レバーを「N（中立）」にします。
- ③ スイッチを「OFF」にします。

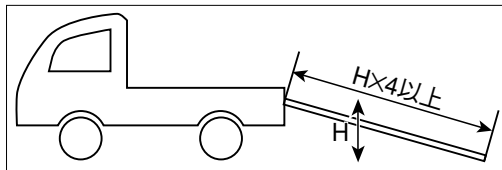
#### ⚠ 注意

- 機械を離れる時は、必ずエンジンを停止し、走行クラッチを「ブレーキ」の位置にしてください。
- 駐車はなるべく平坦な安定した場所で行なってください。やむなく傾斜地に置く場合は、木片などで車止めをしてください。

### 4. トラックへの積み込み、積降ろしのしかた

#### ⚠ 注意

- トラックへの積み込み積降ろしは大変危険が伴います。手や足をはさまないように、また落下させないようにじゅうぶん注意してください。
- 平坦な場所で作業してください。
- あゆみ板はトラックの荷台高さの4倍以上の長さで、強度300kg以上のものを使用してください。
- 積み込みは前進で、積降ろしは後進で、サイドクラッチを使わずに低速で行なってください。
- あゆみ板の上では変速レバーを絶対に変えないでください。機械が落下します。
- 積込んだらエンジンを停止し、燃料コックを「閉」にしてください。
- 運搬中に機械が落下したり移動したりしないよう、走行クラッチを「切」にし、必ずロープ等でしっかりと固定してください。



### 5. 作業

#### 5-1 作業場所の選定

#### ⚠ 警告

- 密閉した又は通気性の悪い所では絶対に作業しないでください。排気ガスが充満して中毒死するおそれがあります。
- 火気のある所では絶対に作業しないでください。切断わら等に引火し、火災のおそれがあります。
- 水平で平坦な場所で作業してください。傾斜地や不安定な所では、作業中に移動したり、転倒したりする危険があります。

水平で安定した場所を選び、走行クラッチを「切」にします。

#### 5-2 カッタ作業

#### ⚠ 危険

- カッタ回転中は供給口・吐出口の中に絶対手を入れないでください。中の回転刃で大ケガをします。

#### ⚠ 注意

- 吐出口を人や家畜及び火気に向けないでください。切断物が飛散して傷害事故や火災になることがあります。
- 走行しながらの作業は危険です。絶対にしないでください。
- カッタ回転中は周囲に人を近づけないでください。特に子供さん達に注意してください。
- 軍手は使用しないでください。供給ロールに巻き込まれて大ケガをするおそれがあります。
- 作業中に詰まり等の異常が発生した場合は、すぐにエンジンを停止し、カッタの回転が止まってから点検してください。



- ①カッタクラッチを「入」にします。
- ②アクセルレバーを「高」にします。
- ③供給クラッチを「入」にします。
- ④供給物を供給樋に載せ、供給します。

**注意**

- 供給物を引っ張ったり押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。
- 供給物に異物（石、工具、金属等）が混入しないように注意してください。突発的に思わぬ方向に飛散し、事故につながる可能性があります。

**重要**

- 直径20mm以上の残幹は絶対に供給しないでください。カッタが破損する恐れがあります。
- わら束が大きい場合は半分ずらして供給してください。
- 梱包牧草はよくほぐし、くい込み易いように先端を薄くして供給してください。

### 5-3 放出距離の調節

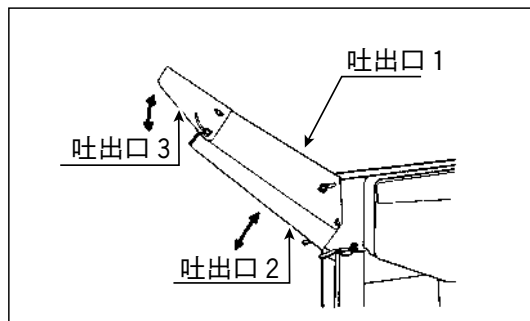
**注意**

- 排出口の調節は必ずエンジンを停止してから行ってください。

切断物の放出距離は吐出口1・2、吐出口3の角度で調節します。

**重要**

- 切断長120mm、150mm（オプション部品使用時）の場合は、吐出口3を水平より下げないでください。

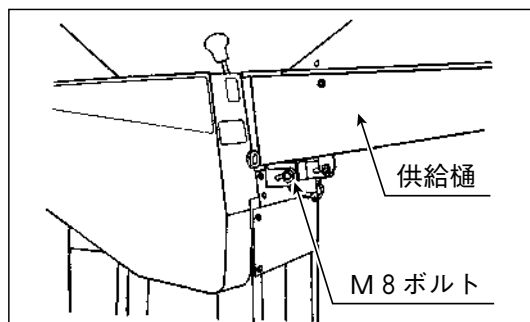


### 5-4 供給樋の高さ調節

**注意**

- 供給樋の調節は必ずエンジンを停止してから行ってください。

供給樋のM8ボルトをゆるめ、作業しやすい高さに調節してください。





# 定期点検と調節

## ⚠ 注意

- 各部の給油・点検・調節は必ずエンジンを「停止」し、カッタの回転が止まってから行なってください。
- 外したカバーは元通りに組付け、ボルト、ナットは確実に締付けてください。

- 定期オイル交換

## ⚠ 注意

- オイル給油及び交換中は火気厳禁

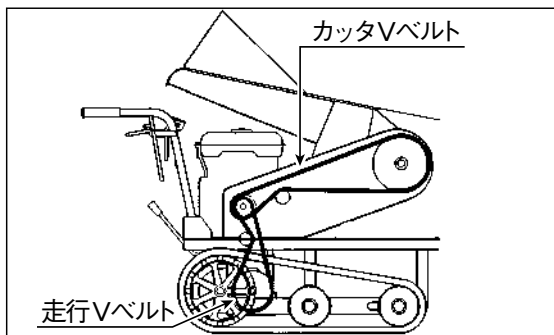
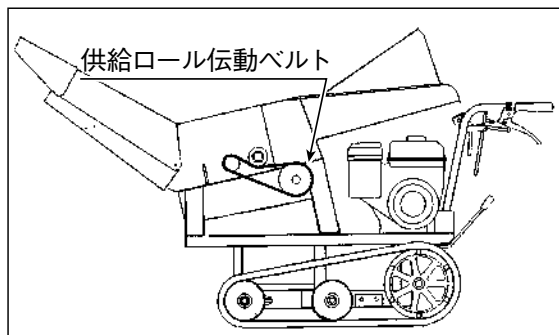
項目	参照ページ	交換時間	オイルの種類	給油量
エンジンクランクケース	P 8	1回目 20時間 2回目以降 100時間毎	S E 級以上	0. 6 l
ミッションケース	P 18	1回目 50時間 2回目以降 200時間毎	ギヤオイル#80	0. 7 l

## ●点検・調節一覧

項目	参照ページ	実施時期
刃物	P 16. 17	切れなくなったら
走行クラッチワイヤ	P 17	20時間毎
ブレーキワイヤ	P 17	20時間毎
カッタクラッチワイヤ	P 17	20時間毎
サイドクラッチワイヤ	P 18	20時間毎
燃料パイプ	P 10	3年毎（但し必要に応じ）交換
供給ロール伝動ベルト		20時間毎
走行Vベルト		50時間毎点検
カッタVベルト		50時間毎点検

## ⚠ 注意

- 走行Vベルトは定期的に点検し、亀裂等の異常があった場合は、交換してください。走行中に切断した場合、坂道などで自重により暴走する危険があります。



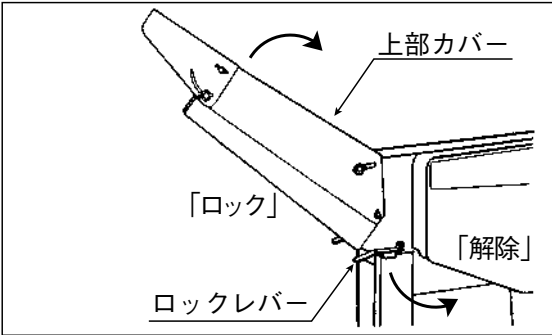
# 1. 刃物の交換・研磨と調節

## ⚠ 注意

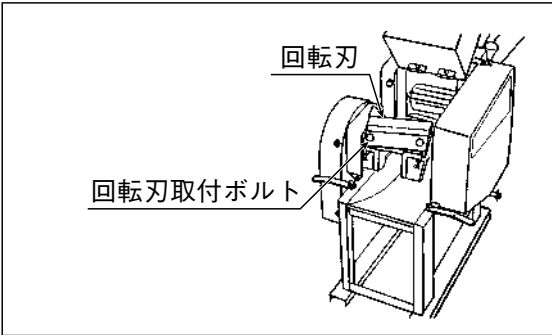
- 刃物の点検・交換・調節・研磨は厚手の革手袋を着用して行ってください。鋭利な刃先でケガをすることがあります。
- 刃物の交換・研磨時は、必ず刃のすき間を調節して、ネジを確実に締めてください。

### ■ 回転刃の交換

- ① 上部カバーのロックレバーを解除し、上部カバーを開けます。

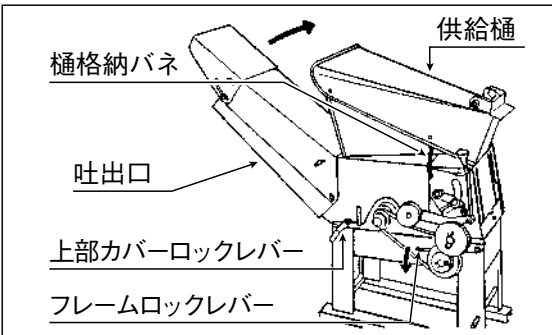


- ② 回転刃取付ボルトを外します。
- ③ 取付けは取付面をよく掃除して、逆の順序で行ないます。

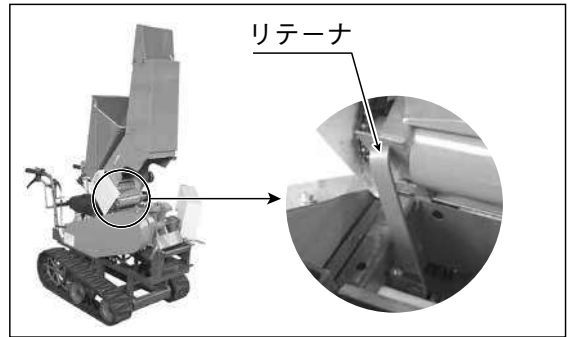


### ■ 固定刃の外し方

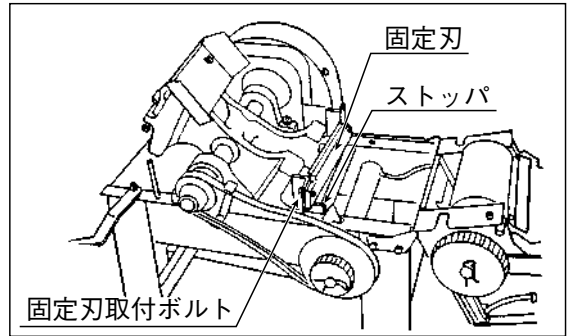
- ① ベルトカバーを開きます。
- ② 樋ロックレバーを解除して供給桶を格納します。
- ③ 樋格納バネを桶カバーの穴部に差込みます。
- ④ 上部カバーロックレバーを解除します。



- ⑤ フレームロックレバーを解除して、吐出口を持ってフレームを開放し、リテーナをフレームの穴に確実に差し込みます。



- ⑥ 固定刃取付ボルトを外します。
- ⑦ 取付けは取付面をよく掃除して、固定刃をストッパに当て取付けます。



### ■ 刃の研磨

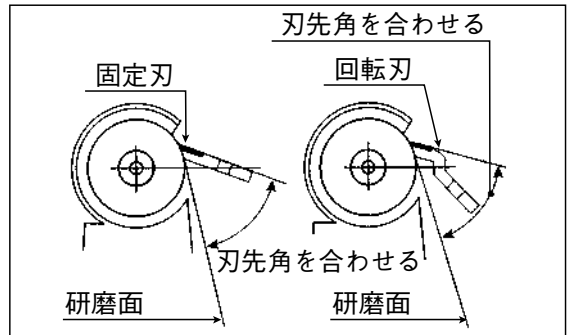
## ⚠ 注意

- 研磨時は火花が飛びます。必ず保護メガネを着用し、周囲の人・物に注意して安全に行なってください。

研磨機（水砥石）に刃物の刃先角を合わせて研磨します。

## 重要

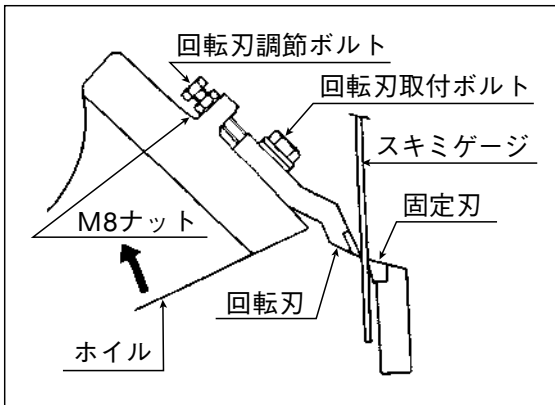
- 刃先の研磨面は間違えないでください。
- 回転刃は取外した面に同じ回転刃を取付けてください。すき間調節が楽に行なえます。
- 刃先が焼けやすいよう注意してください。



## ■刃のすき間調節

回転刃と固定刃のすき間は付属品のスキミゲージで0.2~0.3mmに調節します。スキミゲージを固定刃に垂直に当て、回転刃を矢印方向に手で軽く回し、スキミゲージが刃物で軽くはさまれ通過する程度が適正です。刃のすき間は、刃の両端2箇所を確認してください。

- ①回転刃取付ボルトをゆるめます。
- ②回転刃調節ボルトのM8ナットをゆるめ、回転刃調節ボルトで回転刃を押し出して、すき間を調節します。
- ③すき間調節後は、M8ナット、回転刃取付ボルトを確実に締付けます。
- ④ほかの1枚も同様に調節します。



### ⚠ 注意

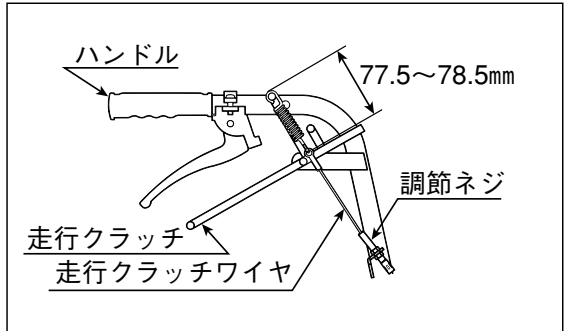
- すき間調節後は必ず手でホイルを逆回転し、刃当たりがないか確認してください。
- 外したカバーは元通りに組付け、ボルトナットは確実に締付けてください。
- 供給樋、上部カバーは確実にロックレバーでロックしてください。ロックしないで作業するとケガをするおそれがあります。

## 2. 各ワイヤの調節

### 2-1 走行クラッチワイヤ

- ベルトがスリップして走行できないときは、調節ネジでワイヤを張ります。

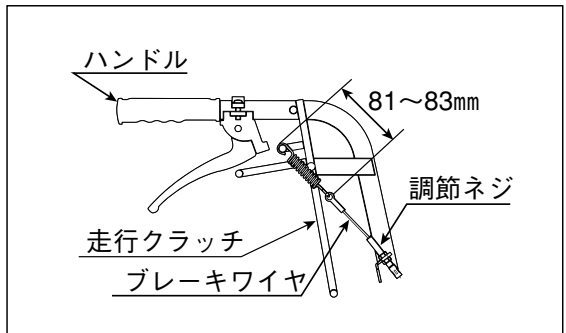
- ①走行クラッチを「入」にします。
- ②走行クラッチワイヤの調節ネジの止めナットで、テンションスプリングのフック外側の距離を77.5~78.5mmに調節します。



### 2-2 ブレーキワイヤ

- 走行クラッチを切ってもブレーキが効きにくい時は調節してください。

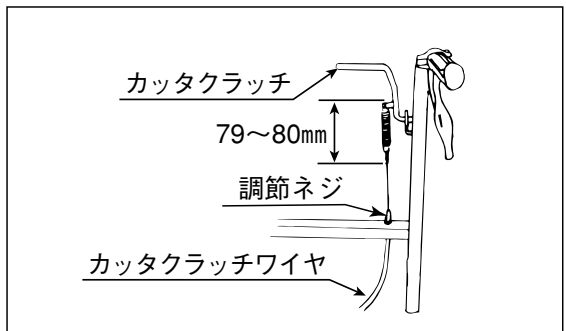
- ①走行クラッチを「切」にします。
- ②ブレーキワイヤの調節ネジの止めナットで、テンションスプリングのフック外側の距離を81~83mmに調節します。



### 2-3 カッタクラッチワイヤ

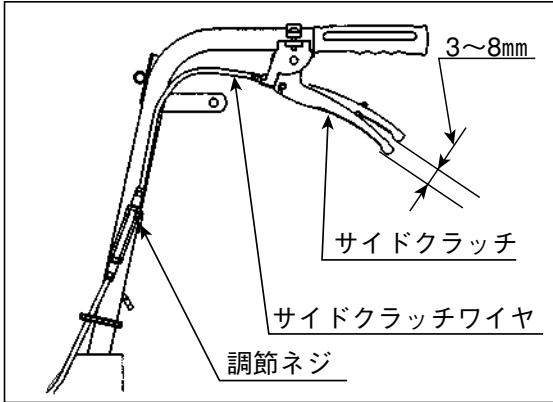
- ベルトが伸びてスリップするときは、調節ネジでワイヤを張ります。

- ①カッタクラッチを「入」にします。
- ②カッタクラッチワイヤの調節ネジの止めナットで、テンションスプリングのフック外側の距離を79~80mmに調節します。



## 2-4 サイドクラッチワイヤ

- サイドクラッチをにぎってもサイドクラッチが切れにくいときは、調節してください。
- ① サイドクラッチの入った状態で、レバー先端に3～8mmの遊びがあるようにしてください。
- ② 切れにくいときは調節ネジを長くし、入りにくいときは短くします。



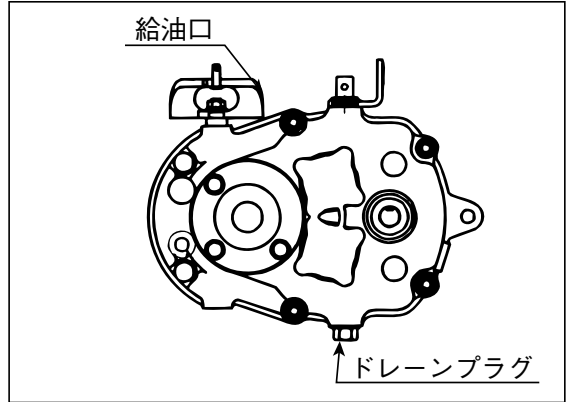
### 重要

- 調節後、調節ネジのロックナットは確実に締付けてください。

## 3. ミッションオイルケースのオイル交換

### 定期オイル交換

オイルの交換は1回目50時間、2回目以降は200時間毎に行ってください。オイルの抜き取りは、ドレインプラグを外して行い、給油口から給油してください。



### 重要

- ミッションオイルを補給・交換するときは、給油口の周りをきれいにしてください。ミッションケース内に泥などが混入すると、故障の原因になります。

# 長期格納

### 注意

- 機械の保管中にお子さんが近よらないよう注意してください。
  - 機械は転倒しないような安定した場所で火気類のないところに保管してください。
- ① 各カバーを外し、付着・堆積したわらくずなどを取除いてください。
  - ② 回転刃・固定刃を油ぶきしてください。また各回転部・支点部・カバー内のテンションアーム支点部に注油し、錆びないようにしてください。
  - ③ ボルト・ナットなどのゆるみを調べ、ゆるんでいれば締付けてください。
  - ④ 走行クラッチ、カッタクラッチ、供給クラッチをそれぞれ「切」にしてください。
  - ⑤ 風雨のあたらない、ごみのない乾燥した場所へ保管してください。
  - ⑥ 30日以上エンジンを始動しない場合は、燃料を完全に抜き取ってください。
  - ⑦ その他、エンジンについてはエンジンの取扱説明書をご覧ください。

# 不調の原因と処置

## ⚠ 注意

- 点検・整備は必ずエンジンを停止し、カッタの回転が止まってから行ってください。

現象	原因	処置
カッタが回らない。	カッタベルトが外れている。	掛けなおす。
	ベルトの張りがゆるく、伸びている。	ベルトを張る。
供給物が食い込まない。	束が大きい。	束を半分ずらす。
	供給量が多い。	供給量をへらす。
	小枝が広く張った残幹。	供給口の幅に合わせて枝を切る。
	残幹が太い（直径20mm以上）。	直径20mm以下にする。
切断部で詰まる。	ベルトがたるんでいる。	ベルトを交換する。
	供給量が多い。	供給量をへらす。
	カッタベルトスリップ。	ベルトを張る。
	回転数が低い。	回転数を高くする。
	刃物が摩耗し、切れ味が悪い。	研磨する。
吐出口で詰まる。	回転刃・固定刃のすき間が大きい。	刃のすき間調節をする。
	回転数が低い。	回転数を高くする。
	刃物が摩耗し、切口が連なり長いものが混じる。	研磨する。
	吐出口の先端の押さえ過ぎ。	吐出口3を開く。
	材料が軽く飛ばない。	吐出口を上げる。
切断長が長い。	湿った材料が付着する。	吐出口を下げる。
	回転刃・固定刃のスキマが大きい。	刃のスキマ調節をする。
切断長が短い。	刃物が摩耗し、切れ味が悪い。	研磨する。
	供給量が多く、ロール部で停滞している。	供給量をへらす。
異音、騒音がする。	油切れ。	注油する。
	ネジのゆるみ。	締付ける。
走行しない。	走行ベルトが外れている。	かけなおす。
	ベルトの張りがゆるく、伸びている。	ベルトを張る。
走行時、旋回できない。	サイドクラッチが切れない。	ワイヤを調節する。
ブレーキがきかない。	ワイヤが伸びている。	ワイヤを調節する。

# 仕 様

型式名		CR-191C	CR-211C
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1980	
	全 幅 (mm)	700	
	全 高 (mm)	1145	
総 重 量 (kg)		163	166
カ ッ タ	毎 時 能 率 (kg/h)	2500 (注1)	2800 (注1)
	は ね 出 し 機 構	シリンダタイプはね出し型	
	は ね 出 し 距 離 (mm)	6 (注2)	
	切 断 寸 法 (mm)	35・45・70・90	
	切 断 寸 法 切 換 機 構	歯車交換・ワリプーリ	
	ロ ー ル 幅 (mm)	190	210
	主 軸 回 転 数 (rpm)	950~1000	
伝 道 部	カ ッ タ ク ラ ッ チ	ベルトテンションクラッチ方式	
	走 行 ク ラ ッ チ	ベルトテンションクラッチ方式 (ブレーキ付)	
	操 向 装 置	サイドクラッチ方式	
エ ン ジ ン	名 称	GB181L N-063	
	連 続 定 格 出 力 kW (PS) /rpm	3.4 (4.7) / 1800	
	最 大 出 力 kW (PS) /rpm	4.6 (6.3) / 1800	
走 行 速 度	前 進 (m/s)	0.5 / 1.0 (1速 / 2速、エンジン1950rpm時)	
	後 進 (m/s)	0.6 (エンジン1950rpm時)	

注1 本仕様の毎時能力は、乾燥稲わらの切断長90mmの場合です。

注2 はね出し距離は、乾燥稲わらの切断長90mmの場合です。生牧草類などの場合は記載仕様の1/2~1/3の距離になります。

※この仕様は、改良のため変更することがありますのでご了承ください。

## オプション

### ■切断長切換えギヤ

下記のギヤを組合わせて切断長を17・22・120・150mmに切換えできます。

品 番	品 名
71168-91101	カエギヤ、アッシ (T14とT42ギヤのセット)
71168-91111	T14ギヤ
71168-91121	T42ギヤ





# 安全説明確認カード

説明者（販売店・農協）控

年 月 日

私は説明員から安全についての説明をききました。

ご使用者住所

氏名



販売店・農協名

担当者

型式

製造番号

## 【基本事項】

チェック

1. 作業管理者を決めること。	
2. 作業に適した健康人であること。	
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。	
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。	
5. 不当な改造をしないこと。	

## 【作業について】

チェック

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。	
2. 作業場所の換気と明るさに注意を払うこと。	
3. 作業に合った服装で行なうこと。 軍手は使用しないこと。	
4. 毎日作業前にエンジン・カッタの点検・掃除を行なうこと。	
5. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>●火気の近くやくわえタバコでは絶対に行なわないこと。</li><li>●キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>	
6. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●カバー類を必ず取付けること。</li><li>●周囲の安全を確認すること。</li><li>●必ず各クラッチを切ること。</li></ul>	
7. 発進・旋回はエンジン回転を低速にして行なうこと。	
8. 走行中絶対カッタを回さないこと。	
9. 走行中手放し運転は行なわないこと。	
10. カッタの上に荷物を載せて運搬車として使用しないこと。	
11. 坂道では変速レバーを使わないこと。	
12. 走行クラッチは必ず手で操作し、クラッチを途中で止めないこと。	
13. 機械から離れるときは、必ずエンジンを停止し、冷えるまで待つこと。	
14. やむなく傾斜地に置くときは必ず車止めをすること。	

チェック

15. 本機の前傾角度は15°で横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には乗り入れないこと。	
16. トラック等への積降ろし作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●水平で平坦な場所で行なうこと。</li><li>●十分な強度と長さ（乗せる高さの4倍以上）のあゆみ板を使用すること。</li><li>●積込みは前進で、積降ろしは後進でサイドクラッチを使わずに低速で行なうこと。</li></ul>	
17. カッタ作業は水平でしっかりと安定した火気のない所で行なうこと。	
18. カッタ回転中は供給口・吐出口の中に絶対に手を入れないこと。	
19. 吐出口を人や家畜、火気に向けないこと。	
20. カッタ作業及び駐車時は走行クラッチを必ず「切」にすること。	
21. カッタ回転中は周囲に人を近づけないこと。	
22. 作業中に異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。	
23. 供給物を引っ張ったり、押し込んだりしないこと。	
24. 供給物に異物が混入しないように注意すること。	
25. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに触れないこと。	

## 【点検・格納について】

チェック

1. 点検・調整はエンジンを停止し、カッタの回転が止まってから行なうこと。	
2. 刃物の点検・整備するときは、厚手の革手袋を着用すること。	
3. 保管中には子供たちに触れさせないこと。	
4. 水平で火気類のないところに保管すること。	



# 安全確認一覧表

## 基本事項

1. 作業管理者を決めること。
2. 作業に適した健康人であること。
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。
5. 不当な改造をしないこと。

## 作業について

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。
2. 作業場所の換気と明るさに注意をはらうこと。
3. 作業に合った服装で行なうこと。軍手は使用しないこと。
4. 毎日作業前にエンジン・カッタの点検・掃除を行なうこと。
5. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>●火気の近くやくわえタバコでは絶対に行なわないこと。</li><li>●キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>
6. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●カバー類を必ず取付けること。</li><li>●周囲の安全を確認すること。</li><li>●必ず各クラッチを切ること。</li></ul>
7. 発進・旋回時はエンジン回転を低速にして行なうこと。
8. 走行中絶対カッタを回さないこと。
9. 走行中手放し運転は行なわないこと。
10. カッタの上に荷物を載せて運搬車として使用しないこと。
11. 坂道では変速レバーを使わないこと。
12. 走行クラッチは必ず手で操作し、クラッチを途中で止めないこと。
13. 機械から離れる時は必ずエンジンを停止し、冷えるまで待つこと。
14. やむなく傾斜地に置くときは必ず車止めをすること。
15. 本機の前角度は15°で横転角度は10°です。それ以上の傾斜面には乗り入れないこと。
16.トラック等への積降ろし作業時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●水平で平坦な場所で行なうこと。</li><li>●十分な強度と長さ（乗せる高さの4倍以上）のあゆみ板を使用すること。</li><li>●積込みは前進で、積降ろしは後進でサイドクラッチを使わずに低速で行なうこと。</li></ul>
17. カッタ作業は水平でしっかりと安定した火気のない所で行なうこと。
18. カッタ回転中は供給口・吐出口の中に絶対に手を入れないこと。
19. 吐出口を人や家畜、火気に向けないこと。
20. カッタ作業及び駐車時は走行クラッチを必ず「切」にすること。
21. カッタ回転中は周囲に人を近づけないこと。
22. 作業中に異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。
23. 供給物を引っ張ったり、押し込んだりしないこと。
24. 供給物に異物が混入しないように注意すること。
25. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに触れないこと。

## 点検・格納について

1. 点検・調整はエンジンを停止し、カッタの回転が止まってから行なうこと。
2. 刃物の点検・整備するときは、厚手の革手袋を着用すること。
3. 保管中は子供たちに触れさせないこと。
4. 水平で火気類のないところに保管すること。

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求め下さい。  
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。  
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



### 株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地  
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道営業所 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地  
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号  
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864

品番 71404-5141-1